



輝く
恵那人

240人目



明智町新町1丁目
藤本 勝彦さん (62歳)

□プロフィール

明智町在住。新聞販売業やジビエの活用事業、民泊を営み、猟友会明智支部長を務める。狩猟者の育成のため、研修会や高等学校での講義なども行っている。趣味は銃を用いて皿を割るクレ射撃。



▲捕獲したシカやイノシシを加工して作った商品

有限会社藤本商店と株式会社恵那ジビエの代表取締役を務める藤本勝彦さん。有限会社藤本商店では新聞販売業を、株式会社恵那ジビエでは捕獲したニホンシカやイノシシをジビエとして活用する事業を行っている。

藤本さんは明智町で生まれ育ち、高校卒業後名古屋で就職。30歳の頃、結婚を機に明智町に戻り、曾祖父の代からの家業である狩猟と、妻の家業である新聞販売業を営むことになった。家族が狩猟をするのはよく見ていたが自分で狩猟をするのは初めて。狩猟方法を学び、狩猟免許を取得した。

市内ではイノシシやシカなどの鳥獣被害が後を絶たず、農家に被害を及ぼしている。藤本さんは被害の削減のため長年狩猟を行ってきたが、捕獲した鳥獣の後始末をどうするかなどの課題があった。そこで約8年前、藤本さんは捕獲したシカやイノシシを有効活用しようとAKジビエ研究会を立ち上

げ、ジビエの加工食品の販売事業を始めた。令和5年3月には株式会社恵那ジビエを設立し、加工施設も完成。「以前より取引先が増え、信用度が増した」と藤本さんは話す。

藤本さんの一日は新聞配達から始まる。午前2時に起床し、シカやイノシシがいるかどうかの見回りを兼ねて新聞を配る。その後、なをかけて回ったり、狩猟をした。その後、捕獲した鳥獣の加工作業などを行う。株式会社恵那ジビエでは、年間約200頭のニホンシカやイノシシを加工し、レトルトカレーやソーセージ、ハムなどにして、市内外の約60店舗に出荷している。

「商品がおいしいと言ってもらえるのがうれしい。今後はさらに会社の認知度を上げ、鳥獣被害の減少に貢献したい。後継者の育成にも力を入れたい」と今後の抱負を語る藤本さんは、今日も地域のために腕を振るう。

ジビエを有効活用したい
鳥獣被害を減らし、地域貢献を



その他の話題もウェブサイトに満載

News & Topics まちのわだい



11/12

特殊詐欺などに注意を
竹下景子さんが一日警察署長

女優の竹下景子さんが恵那警察署の一日警察署長に就任し、市内のパトロールと啓発活動を行いました。竹下さんは「地域のコミュニティ力が防犯につながります。皆さんが安心して生活できるよう、精一杯努めます」とあいさつし、署長や市長とともに啓発物品を配りました。



11/3

岩村町本通りで
5年ぶりの防火パレード

岩村町本通りで、火災予防や住宅用火災警報器の普及を呼びかけるパレードが5年ぶりに行われました。参加した谷口幹汰君(岩邑小学校6年生)は「コンロやストーブを使う時は目を離さないなど、火を使う時は気を付けてほしい」と話しました。



11/17

火災予防を呼びかける
ポスター展の表彰式

岩村コミュニティセンターで第43回火災予防ポスター展の表彰式が行われました。市長賞(最優秀賞)と岐阜県議会議員賞を受賞した鋤柄みなみさん(恵那西中学校1年生)は、「炎が燃え上がる感じを細部まで描きました。受賞できてうれしいです」と喜びました。



11/17

恵那の食・芸術・文化を堪能
清流の国ぎふ文化祭2024

「清流の国ぎふ」文化祭の一環で、恵那文化センターに恵那の食・芸術・文化が集合。ステージでは文楽や獅子舞、地歌舞伎などの伝統芸能が披露され、展示室では絵画や写真が展示されました。外では郷土食などのブースが並び、約2,500人が恵那を味わいました。



11/30

恵那東中学校で初開催
地域ふれあいフェスティバル

世代間交流をしながら地域の人が笑顔になれる場所を作りたいと、恵那東中学校で地域ふれあいフェスティバルが初開催されました。当日は1年生の生徒が、各クラスで試行錯誤しながら手作りの遊びの場を提供し、約600人の来場者をもてなしました。



11/22-23

公共交通の新しい形を
自動運転バスの実証実験

次世代モビリティを活用したまちづくり推進のため、自動運転バスの実証実験が行われました。バスは恵那駅周辺の約700mを最高時速18kmで走行。運転手が基本的に運転しない「レベル2」での走行を行いました。今後は、実現に向けた体制の構築などを行う予定です。